

Independent

令和4年6月20日 発行

No.4

美瑛町すだちの教室通信



「セルフアドボカシー」スキルの育成

～自分に必要な支援を自分で説明する～

ある人が、何かを決めたり活動しようとしたときに、バリア（障壁）に出くわすことがあります。大雑把な言い方ですが、「このバリアを取り除いてください。」「わかりました。こういう方法で取り除きましょう。」「といったものが「合理的配慮」です。

人それぞれ困っていることや配慮してほしいことが違うため、「助けてあげたい」「何か支援できないか」と思っている、どうすればよいか分からないことがあります。これに対して本人も、「困っているけれど何をしてもらったらいいのか、どうお願いしたらいいのか」と分からないこともあります。

自分の考えを相手に伝えることに苦手さがある子どもの困り感を周囲が理解することは難しいものです。とはいえ、周囲が代弁し続けてしまうと本人を置いてきぼりにした支援となってしまいます。彼らが自分自身を理解し、自ら周囲と交渉していく力を身につけることは、自立のうえでも大切です。

語句	定義
アドボカシー (advocacy)	擁護、代弁、弁護とし単に個人の意思を代弁するだけでなく、自分自身で権利を主張できない当事者にとって自己決定を援助するとともに、本人の自己決定に基づいて本人にかわってその権利を擁護するための様々な仕組みや活動の総体 *1、P.70
セルフアドボカシー	自分の権利を自分で守ること*2
シチズンアドボカシー	市民として参加していくための権利擁護*3
パブリックアドボカシー	公的な責任における権利擁護*3
リーガルアドボカシー	法律に関わる権利擁護*3

〈表〉アドボカシーに関する用語と定義（一例）

すだちの教室では、「自分一人でできることと、支援を得てできることが分かる力」（自己理解力）と「何をどのようにしてほしいのかを他者に求められる力」（提唱力）を育て、セルフアドボカシーのスキルを育成できるように一人ひとりに応じた活動を行っています。

参考文献

月刊「実践みんなの特別支援教育」5月号より

〈7月の予定〉

